



年 組 名前

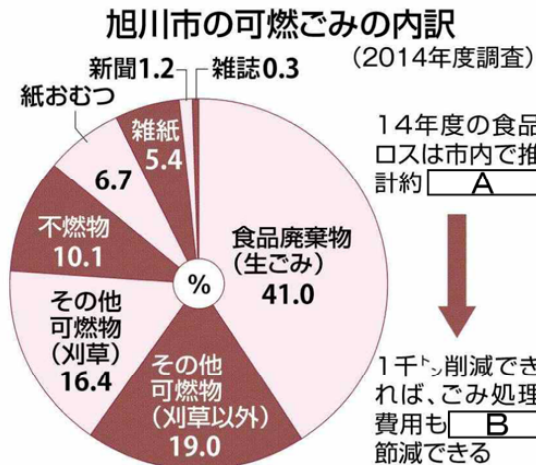
# 道新でワークシート

食べられるのに廃棄 旭川で年6200ト

## なくせ家庭の「食品ロス」



旭川市は本年度、まだ食べられるのに食品を捨ててしまう「食品ロス」の削減に本格的に乗り出す。国内で年間600万ト以上も出る食品ロスの半分は家庭からといわれる。このため市は「食品ロス削減モニター」を市民に委嘱し、家庭内の廃棄量の実態調査を10月に初めて実施。食品ロスを減らすアイデア公募や冷蔵庫整理のセミナーも行い、啓発を強化する。(小林史明)



国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」は2030年までに家庭や飲食店など出る食品ロスの半減を目指している。5月に成立した食品ロス削減推進法は、自治体の責務として対策強化を盛り込んだ。市が14年度に行った家庭ごみの組成調査によると、可燃ごみの約4割を食品廃棄物(生ごみ)が占めた。グラフ参照。環境省の調査を参考にした推計では、14年度に市内の家庭から出た食品ロスの量は約6200トに上った。市は27年度までに全てのごみの排出量を10万トに抑える目標を掲げており、食品ロスを1千ト減らせば、その分のごみ処理費用も年間1千万円が削減できるという。

食品ロス削減モニターは家庭で食事を作る20歳以上の市民約30人で、既に市が募集した。10月7日から約1カ月間、貸し出された計量器を使い、

### 市、モニター委嘱 来月初の実態調査

毎食の捨てた料理や食材の重さを記録する。調査用紙に食べ残しや消費期限切れなど捨てた理由、反省点も一緒に書き込む。結果は今後のごみ組成分析や減量に向けた施策、啓発活動に生かす。

モニター制度以外にも、食品ロスを減らすアイデアを秋以降に市民から募集し、家庭で実践してもらおうよう広報する。今月28日には、道北アイクス大雪アリーナで開かれる「食べる・たいせつフェスティバル」(コープさっぽろ主催)でブースを借り、専門家による冷蔵庫の上手な整理方法のセミナーを開く。

市内では、無料、低額で食事を提供する子ども食堂や、生活困窮者に食品を届けるフードバンクの活動が広がっているが、食材の調達が課題だ。市廃棄物政策課は「市の事業を通じ、食べ物を無駄にしない意識を広く定着させたい」と話している。

2019年9月3日(火) 朝刊 旭川・上川版 15P

①記事左上の円グラフの説明にある 、 に入る言葉を記事の中から抜き出さない。単位も忘れずに付けること。

②食品ロス削減推進法には、「まだ食べることができる食品が廃棄されないようにするための取組」が必要だと述べられています。あなたが有効だと思う取組を、40字程度で書きなさい。